

大門高校通学バスの運行

「大門駅からの通学路が暗いうえに人通りがなく、不審者情報もあとを絶たない。生徒のためにPTAでバスを走らすことができんか、研究してくれんかな」・・・2008年の秋、当時の岡田校長の言葉でした。開校以来33年来の悲願でもありました。

明るくなる年の5月、PTA総会にて、バス運行実現にむけての議案が満場一致で力強く採択されました。

全国的に類をみないPTAによる通学バス運行プロジェクトの始動でした。

生徒や保護者からのニーズ把握、受益者（利用者）の負担金額、その収納業務と乗車バスの作成、バス会社との交渉と絞込み、契約内容の協議、JRとの接続を考慮した運行の時間設定と運行コース、バスの待機場の確保と土地の造成、行政庁への許認可にかかる届出、地域の方々の理解、等々ハードルが幾重にも重なっていました。ところが、当時のPTA本部役員は大門高校1期生を中心に同窓会員が何人も名を連ねているうえ、それぞれの分野に精通しており、スタートから半年を待たずして、2009年秋に貸し切り運行が始まりました。生徒たちへの熱い思いが結実したのです。

現在は運行の主体をバス会社に委ね、路線運行となり、大門高校生のみならず地域住民の皆さんの交通手段としても有効に機能しています。

大門高校同窓会はそのプロジェクトに賛同し、待機場の造成費用の一助として資金面の支援をさせていただきました。

因みに大門高校PTAはその活動が功績顕著として、2011年全国高等学校PTA連合会大会において、全国表彰を受けました。

今後とも「生徒たちになにができるのか」を問い続け、後方支援に徹する同窓会でありたいと念じる次第です。